

お茶一服の時間で、日本のお茶文化と地場産業を紡ぎなおす 新ブランド「茶時間」リリース



茶時間
CHAJICAN



萬古焼の窯元 有限会社山口陶器が

2/7(月)お茶にまつわる総合ブランド「茶時間」(ちゃじかん)をリリースします。

茶器・茶葉・茶菓子は、それぞれが日常で紡がれてきた日本の大切な生活文化です。
その3つの関係を結び直し、これからの新しいお茶の時間を提案します。

3月店頭販売スタート

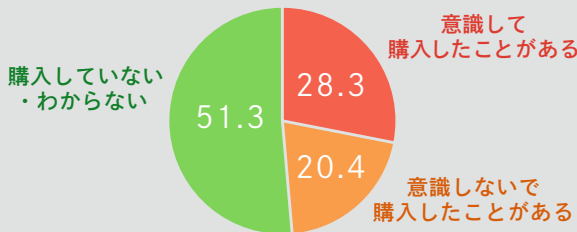
急須 / ゆのみ / 湯冷まし

■茶葉、茶器の消費量の低下と地場産業の衰退

ここ三重県は全国有数のお茶の産地です (令和3年度生産量全国3位:農林水産省調べ)

また、この地域の地場産業 萬古焼を代表する紫泥の急須も伝統工芸品に指定されています。しかしながら昨今のペットボトル飲料や輸入茶の増加 (参照図A)や現代人の思考の変化に伴い、急須でお茶を淹れる為の茶葉やその道具の消費が減少傾向にあります(参照図B)。

地場産業・伝統産業品の購入経験率(単位:%)



※出典: JTB 総合研究所「地場産業・伝統産業品への意識についての調査」(2018年3月発表)
(調査対象: 全国の20~79歳の男女1595名)

参照図B

緑茶飲料の生産量の推移

資料: (社)全国清涼飲料工業会「清涼飲料水関係統計資料」

	平成16年 (2004)	17年 (2005)	18年 (2006)	19年 (2007)	20年 (2008)	21年 (2009)	22年 (2010)	23年 (2011)
生産量 (単位:千L)	2,365	2,648	2,440	2,467	2,363	2,241	2,239	2,228

参照図A

茶農家も萬古焼も次世代に残すべき地場産業であり、奈良時代から伝わる茶の歴史は日本の誇るべき文化です。
「産地を守り、この文化を残したい」そんな想いを込めて、時代に寄り添うお茶時間をデザインします。

■今後の展開

茶農家と連携したオリジナルブレンド茶葉の開発や、日本各地の茶菓子メーカーとの協業、茶さじや茶缶など全国の地場産業とコラボ商品の展開を予定中。

■”新しい地場産業のカタチを作る”窯元 山口陶器とは

代表取締役社長山口典宏。昭和48年創業の萬古焼の窯元。地域の経済発展の寄与という従来の地場産業の在り方から”新しい地場産業のカタチを作る”をビジョンに掲げ平成14年自社ブランド「かもしか道具店」を立ち上げる。令和4年「かもしかビレッジ」構想スタート。自社前の森を開拓し、地域の人々が交流できる場づくりを手掛けるなど観光産業にも注力している。

【山口陶器: <https://yamaguchi-p.jp> かもしか道具店: <https://kamoshika-douguten.jp>】

《本件に関するお問合せ》

(有)山口陶器/広報担当 (株)菰野デザイン研究所 矢田

TEL 090-8676-7216 Email yada@komono-design-labo.jp